

# 風しん患者を診察したら、すぐ保健所支所に連絡を！

風しんが発生した際に、迅速に対応を行うために、  
平成30年1月1日から、風しんの届出方法等が変更となりました！  
2020年までに風しんの排除状態を達成するために、御協力をお願いします！

## 【届出方法等の変更ポイント】

- ✓ 診断時には直ちに届出
- ✓ 発生届に患者の個人情報（氏名、住所、連絡先等）を記載

※「風しん発生連絡票」は提出不要となります。患者の所属する保育園や学校、勤務先等については発生届の19欄「その他感染症のまん延及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項」に記載してください。

## 検査診断に御協力ください！

風しんは 検査による確定診断 が重要です。臨床診断による届出の場合も、次の2種の検査に必ず御協力ください。

### 【検査】

- ① 医療機関での血清による I g M抗体価の測定(発症後4日～28日目の検体が望ましい)  
又は、ペア血清での抗体価陽転の確認
- ② 行政での遺伝子検査用の検体提供（保健所支所へ検体を提出）  
※鑑別診断、除外診断のための遺伝子検査は行いません。

### ○保健所支所への提供検体

検体	採取量	容器
咽頭拭い液	ウイルス搬送用培地 鼻腔拭い液でも可能	(りん酸緩衝生理食塩水 (PBS) 又は 生理食塩水)
血液	2ml程度	抗凝固剤 (EDTA 又はクエン酸) 入り採血管 血清でも可能
尿	10ml程度	滅菌スピッツ管

※ 発症後1週間程度までの検体を可能な限り2検体以上提供をお願いします。  
上記3検体の他、髄液でも可能です。

※ 臨床症状では届出基準を満たさず、まず抗体検査等を実施する場合も、保健所支所提供用の検体を確保し、4℃で保存をお願いします。

### ○風しんの臨床像

2～3週間の潜伏期間を経て、全身性の小紅斑や紅色丘疹、リンパ節腫脹、発熱を3主徴とします。リンパ節腫脹は発疹出現数日後に出現し、3～6週間で消退します。発熱は38～39℃で、3日程続き、皮疹も3日程で消退します。合併症として、脳炎、血小板減少性紫斑病があります。

妊婦さんが感染すると先天性風しん症候群 (CRS)の原因となることがありますので、患者さんの周囲に妊婦さんがいる場合は注意が必要です。

※ CRS とは、白内障、心疾患、難聴を3主症状とする先天性疾患です。

川崎市健康福祉局保健所感染症対策課

電話：044-200-2441 平成29年12月作成